

第28回 茨城県移動性・安全性向上委員会 議事要旨（案）

開催日時 令和3年8月24日（火）13:30～15:30

開催場所 常陸河川国道事務所 2階 会議室

<議事等>

1. 移動性関係議題について

- 1-1 これまでの検討経緯と今回の論点
- 1-2 ①渋滞対策の進捗状況確認
- 1-3 ②最新の交通状況による分析
- 1-4 ③渋滞対策箇所の効果確認
- 1-5 ④主要渋滞箇所の見直し
- 1-6 ⑤優先検討箇所の検討状況

2. 安全性関係議題について

- 2-1 これまでの経緯
- 2-2 第27回委員会における主な指摘事項と対応
- 2-3 これまでの事故ゼロプランの取り組み
- 2-4 第5次事故危険箇所の選定
- 2-5 事故危険区間【第6期】の抽出
- 2-6 事故危険区間（エリア）の選定
- 2-7 令和3年度合同現地診断について
- 2-8 今後のスケジュール



<主な意見>

1. 移動性関係議題について

1-1 これまでの検討経緯等

委員 ○主要渋滞箇所の特定から解除までの流れについては、これまでの検討経緯を踏まえ、いくつか課題が見受けられ、シンプルに分かりやすく改善した方がよいので、案を提示するとともに、議論して欲しい。

事務局 ○今後、改善していきたい。

1-2 ①渋滞対策の進捗状況確認

委員 ○酒門町交差点の立体化事業に合わせて、周辺細街路への抜け道利用を抑制するソフト対策も検討して欲しい。

1-3 ②最新の交通状況による分析

委員長 ○モニタリング指標は、「旅行速度の年平均値」を採用しており、花が咲く期間に観光客が集中するなど、ある時期のみが混雑する箇所は対象となりにくい。茨城県の観光を盛り上げていくためにも、特定の時期に混雑する箇所の検討も必要ではないか。

委員 ○新型コロナウイルスの情勢に伴う交通状況分析において、第2回緊急事態宣言時（茨城県独自）の交通量が通常時よりも少ないにも関わらず、平均旅行速度も低い数値になっている箇所があり、要因分析をして欲しい。

事務局 ○今後、要因分析していきたい。

1-4 ③渋滞対策箇所の効果確認

委員長 ○公設市場前交差点の下り側車線利用状況について、現地写真を見ると中央寄り車線の利用が少ない。現状は、中央寄り車線の利用が定着していない可能性もあるので、今後期待したい。

委員 ○河原子交差点の休日ピーク時平均旅行速度が、特定時と比較して大きく上回っている。コロナ禍における交通量減少などの影響も考えられ、要因を分析して欲しい。
○公設市場前交差点の休日ピーク時平均旅行速度が、特定時に比べ低くなっている。これは、交差点付近に立地した新しい商業施設の影響によって、特に休日の発生集中交通量が増えていることも想定される。今後、商業施設を計画する際の参考となるよう、外部要因を含めて状況を整理して欲しい。

事務局 ○今後、要因分析していきたい。

1-5 ④主要渋滞箇所の見直し

委員長 ○額田北の解除については、本委員会で定めたモニタリング指標に基づいて判断するのが基本であり、モニタリング指標によれば解除できない数値である。また、従道路の朝夕で旅行速度が20kmを下回っており、解除しても問題ないか、もう一度確認して、わかりやすく説明してほしい。

委員 ○主道路の円滑性を確保するため、青時間を多く割り当てるということは理解できる。モニタリング指標を下回っているなか、従道路の信号待ちによる速度低下が原因と推測されるならば、どの程度指標に影響しているのかを確認してほしい。

事務局 ○解除については、従道路の混雑の実態を確認するとともに、モニタリング指標と従道路の信号待ちによる速度低下との関係について分析をしたうえで、改めて審議頂くこととする。

1-6 ⑤優先検討箇所の検討状況

委員 ○(仮称)土浦駅西交差点周辺の速度状況に示されている状況は、利用者としても実感しており、改善されるとよい。

委員長 ○当該交差点のみで検討するのではなく、周辺を含めた広域的に要因分析することが重要である。

事務局 ○まずは要因分析を進める。

2. 安全性関係議題について

2-1 これまでの経緯

○特に意見なし。

2-2 第27回委員会における主な指摘事項と対応

委員長 ○年代別分析については、年齢層区分が大きいため、10歳階級区分など細かく分析できればより有効な情報となりうる。

2-3 これまでの事故ゼロプランの取り組み

委員長 ○対策完了(卒業)と判定されなかった箇所は早めの措置が必要と考えるが、今後どのように対応していくのか。

事務局 ○対策完了(卒業)と判定されなかった箇所は、取り扱い方針を検討する。

2-4 第5次事故危険箇所の選定

委員長 ○全国基準に従い第5次事故危険箇所を抽出したということだが、本委員会で対象とし

ている事故危険区間との重複や、これまでの対策の状況を確認頂きたい。

2-5 事故危険区間【第6期】の抽出

- 特に意見なし

2-6 事故危険区間（エリア）の選定

委員 ○ヨークタウン水戸周辺の渋滞については、県警にも地元住民から要望を頂いている。一部の交差点において信号時間の調整を実施したところ。引き続き検討を進めている。

委員 ○対症療法的に対策を実施した場合、広域のネットワーク全体の円滑性が落ちてしまうことを懸念している。右折矢時間を延長したとのことだが、その分、他の青時間が短縮されているということになり、結果的にネットワークの容量が落ちる可能性がある。幹線道路が渋滞してしまうと細街路への流入につながり、安全性が阻害されてしまう場合もあるので、慎重に対策を実施するべきである。

2-7 令和3年度合同現地診断について

委員長 ○時間に余裕があればヨークタウン周辺エリアも加えて現地を確認し、委員会メンバーで共通の認識を持ちたい。行程を考えていただきたい。

2-8 今後のスケジュールについて

- 特に意見なし。

その他指摘事項

委員 ○千葉県八街市で事故が発生したが、通学路の安全性を見直す必要がある。県管理道路等で路側帯が狭い箇所や草が生い茂っていて見通しが悪い箇所などがあるため、市町村とも相談して道路の管理をしっかりと行っていただきたい。また、高齢者が横断歩道を渡る際に、歩行者信号の青時間が短く渡り切れないような場合もあるため、こうしたことも考慮していただきたい。

委員 ○茨城県では、通学路については年2回の草刈りを実施しているが、なかなか追いつかない部分もある。具体的に場所を教えていただければ対応できる箇所もあると考えている。

事務局 ○通学路については、現在、市町村が主体となって各学校の通学路を点検している段階である。これが完了次第、警察・国・道路管理者含めて対策を検討することとなっている。

委員 ○通学路以外にも、見通しが悪いという指摘や信号の秒数が短くて渡り切れないといった指摘を受けている。秒数の見直しを図っているところであるが、具体の箇所があれば、自治体を通じて要望を挙げていただければ対応を検討する。

以上